

平成22年6月1日

清水町議会議長 田中勝男様

清水町議会総務文教常任委員会
委員長 口田邦男

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 図書館の管理・運営について
2. 調査期日 平成22年5月21日
3. 調査先 町内、帯広市

4. 調査の結果

本町図書館の管理・運営の現状について、担当課の説明を受けた後、帯広市図書館の視察を行い同図書館長から説明を受けた。

【本町の図書館の現状について】

町民の教育と文化の発展に寄与することを目的に、平成2年10月、現在の図書館が開館し今年で20年目を迎える。

21年度末の蔵書数は176,360冊で、管内では帯広市について2番目に多く、図書館登録者（図書カード発行者）は2,691人となって

いる。昨年度の利用状況では利用者数は延べ 15,839 人で、貸出冊数は 51,556 冊となっているが、平成 9 年度のピーク時と比較すると、子どもの数や図書購入費の削減などにより半減している。

蔵書の構成は、大人向けの一般書が 67%、児童書及び絵本が 25% で、利用者数は小学生が最も多く、次に 30 代・40 代の女性となっている。

図書館では、特に子どもたちが本に親しむきっかけづくりとして、町内の読書サークルの協力による毎月 2 回の「お話会」を開催し、好評を得ているとのことであった。更には、移動図書館や移動文庫として、各小・中学校や保育所・幼稚園などへの貸し出しも行っている。

また、利用してもらいやすい図書館として、貸出カウンター前のスペースを利用し、毎月テーマを決めての図書展示やエントランスホールで絵画展・写真展を開催するなど工夫をしている。

【帯広市図書館について】

平成 18 年 3 月に開館し今年で 5 年目を迎え、4 月には入館者 200 万人を超えた。年間に 45 万人～50 万人の利用があり、21 年度は、新型インフルエンザの影響もあり、前年度と比較すると若干利用者数は落ち込んでいるが、個人や学校への貸し出しをあわせると約 100 万冊の貸し出しとなっている。

帯広市図書館のコンセプトとしては、本を借りるだけでなく、ゆったりとくつろぎながら読書できる空間の提供を掲げ、椅子などを多く配置している。

職員数は 51 名で、内訳は正職員 11 名、嘱託職員 21 名、臨時職員 19 名となっている。正職員で司書の資格を有しているのは館長 1 名のみだが、嘱託職員に有資格者が 18 名おり、図書などに関する専門的な相談にあたっている。

ボランティアは、帯広図書館友の会に 99 名が登録され、年間 1 人 1,000 円の会費を集め、布製絵本の作成、お話会、目の不自由な

方への対面朗読、壊れた本の補修などを行っている。また、個人ボランティアもおり、生け花の管理、資料整理などを行っている。市で負担するのは、ボランティア保険と布製絵本の布代など材料費のみとなっている。

図書館の平成 22 年度予算総額は 288,004 千円で、内訳は施設の維持管理費 61,245 千円、図書購入費等事業費 66,203 千円、職員人件費等で 160,556 千円となっている。職員数を抑えて運営しており、これ以上経費を削減する場合は休館日を増やす方法しかないが、新市長の公約では毎週月曜日の休館日を少なくする方針が示されており、今後検討することとなっているとのことであった。

運営面では、特集コーナーとして、ビジネス、仕事を始める人向けのコーナー、食に関するコーナー、医療・健康に関するコーナーなどを設け利用の促進を図っている。

また、乳幼児から高校生まで成長に応じて、本に親しむきっかけができるように工夫した取り組みが行われていた。乳幼児に対しては、4 か月健診の際に、親が子どもに対し読み聞かせをしてほしい本のリストを母子手帳の大きさに合わせて作成し配布している。更に、乳幼児を連れて、ゆっくりと本を探す時間がとれない親のことを考え、推奨する本を数冊セットにしてバックに入れ、バックごと貸し出す取り組みも実施している。

小・中・高校生に対しても、どんな本を選んで読んだら良いか分からない子どもたちのために、読んでほしい本の簡単な解説をつけたリストの配布や本を数冊バックに入れて貸し出すなど、気軽に読書ができるよう工夫した取り組みが積極的に行われており、感銘を受けた。